

( 続紙 1 )

京都大学	博士 (地域研究)	氏名	Argachew Boचना Elisi
論文題目	Rural Road Accessibility and the Change of Enset Agriculture in Aari Zone of Ethiopia (地域道路の普及とエンセーテ農業の変容 —エチオピア、アリ県を事例として—)		
(論文内容の要旨)			
<p>農村地域開発において、コミュニティの道路アクセスは農業変革の必要条件であると広く考えられてきた。エチオピアをはじめアフリカ各地で行われた先行研究では、道路建設の目的は複雑で、地域開発を目指してはいてもその背後に政治的な動機が潜んでいたり、地域の生態、歴史、社会的な状況に応じて、社会経済的変化とその影響は異なるなど、道路と農業生産の関係はそれほど単純なものではないことがわかっている。例えばエチオピアの地域道路普及プログラム (URRAP) は、農村コミュニティを季節に関わりなく通行できる道路に接続することをめざして、国内の道路網の整備率を向上させたが、地方における農産物の輸送を大きく改善するには至らなかったことが指摘されている。</p> <p>本論文は、地域道路へのアクセス、エチオピア在来作物エンセーテの生産と住民が実践する在来知識の現状との関係をあきらかにしたうえで、道路アクセスが改善された場合に他の作物とともにエンセーテ生産を増やす方策を考察することを目的としている。調査は、エチオピアのアリ県南アリ郡の3つの村で、乾季と雨季の2つの時期 (2022年6月～8月、2022年11月～2023年1月) に実施され、107人のインフォーマントに対して、半構造化インタビューおよび日常活動や市場取引の直接観察を行っている。</p> <p>第2章では、開発途上国、特にエチオピアにおける道路と農業の接点に関する先行研究を検証するとともに、道路アクセスの状況におけるエンセーテ生産の現状とその知識の動態について考察している。先行研究では、おもに換金作物が栽培される地域と市場を結ぶために建設される道路に焦点があてられてきており、エンセーテ農業は等閑視されてきた。</p> <p>第3章では、道路へのアクセスとエンセーテ栽培の相互作用の特徴を明らかにするために、道路へのアクセスがある村とない村におけるエンセーテの生産と流通の変化を論じている。調査地域では、道路アクセス状況が市場との結びつきに直接的に反映されていないこと、病虫害の蔓延や社会的慣習の変化も、道路にアクセスできるかどうかによらずエンセーテの生産と流通が直面する主要な要素であることを指摘した。乾季のデータと比較して、雨季には、道路にアクセスできる世帯とできない世帯の間では、市場までの移動時間、発酵させたエンセーテのでんぷんの価格や入手可能な量に</p>			

差を見出している。道路アクセスの有無によらず、社会的・文化的領域における世帯の日常活動は、エンセーテ農業と密接に絡み合っており、エンセーテが他の換金作物と共存することを可能にしていることを論じた。

第4章では、45人の世帯主とその子ども62人を対象として体系的な調査データの収集をおこない、道路へのアクセスと結びつけて世帯レベルのエンセーテの知識と栽培の状況の変化について分析した。エンセーテの苗づくりは、かつてはモツラ (*molla*) と呼ばれる労働集団によって共同で実施されてきたが、現在は世帯単位で個別に行われていることを見出した。他方、シルカ (*shirka*) とよばれる、エンセーテの苗の準備と植え付けに取り組む伝統的な慣習は衰退しつつあることも明らかにした。エンセーテに関する在来知識と年齢との間には正の相関があるが、性別とは有意な相関がなかった。幹線道路から各世帯の家までの距離と、エンセーテ栽培面積や在来品種の数との間には正の相関があることを見出した。聞き取り調査によれば、かつてはエンセーテを材料に使った料理の種類が多くあったが、最近では根茎 (*amicho*) と発酵でんぷん (*kocho*) が、この地域における一般的な料理の素材の一つであった。発酵を短時間で促進させるために加工したエンセーテの根茎部分を加えると、味がよく発酵時間も短くなるため、市場でも家庭でも好まれていたこともあきらかにした。この新たな発酵法は、道路アクセスのよい村でもそうでない村でも広まっていることを指摘した。

第5章では、本研究が対象とした農村コミュニティにおいて、道路交通の利便性とエンセーテに対する需要の関係が、世帯が市場に向けてより多くのエンセーテを生産する上で必ずしも重要な決定要因ではないことを指摘した。その理由の一つとして、現状では道路アクセスが改善されたとしても輸送と販売にかかる費用が高いことや、地域の自給作物としてのエンセーテの重要性が高いことをあげている。作物生産は、農村の道路アクセスの利便性によってのみ左右されるのではなく、新旧の作物が自給生産において共存し、互いに影響し合っている現状では、対象とした農村コミュニティにおいてエンセーテと新たに導入された作物の両方の生産が営まれていることが重要であることを論じた。

(論文審査の結果の要旨)

アフリカに限らず発展途上国において、地域発展の方策の一つとして農村と幹線道路をつなぐ地域道路を改善することの重要性は認識されてはいるものの、道路アクセスを改善することだけでは、農業生産の増加や農業技術の変革を見込めないことも指摘されてきた。2010年代にはいり、エチオピアでは政府主導で地域道路の整備がすすめられ、市場経済が村にまで浸透していく過程で、道路網を改善することは経済的な効果を生み出すための条件の一つと考えられている。本論文が対象とするエチオピア西南部アリ県では、バショウ科のエンセーテが自給用の主食作物として長く栽培されてきたが、この15年くらいの中に、エンセーテでんぷんの加工食品が換金的な価値を付与され地域内で流通するようになった。本論文は、エンセーテの栽培や調理加工をめぐる現代的な状況を理解した上で、地域道路へのアクセスが、エンセーテの栽培技術や住民によるエンセーテについての在来知識の現状にいかに関与しているのかを解明した優れた地域研究である。

本論文の学術的な貢献は、以下の3点にまとめることができる。

第1に、本論文が、農村世帯の地域道路アクセスを念頭において、自給作物としてのエンセーテの加工品が市場に受け入れられ経済的な価値が付与される過程を描き出し検討した点にある。この地域では、2000年代から幹線道路の整備が始まり、2017年頃には舗装道路への改修工事が着工された。それにともない、幹線道路沿いの街には、定期バスが運行し始め、人やものが従来以上に流通するようになった。本論文では、地域道路が整備される前から村の女性が、従来の二分の一の時間でエンセーテのでんぷんを発酵させる新たな方法を活用してエンセーテでんぷんを加工し、村の定期市よりも高額な価格で街の定期市において加工品を販売してきたことを、聞き取りと観察をもとに記述し、自給的な作物が経済的な価値を付与される過程を描き出すことに成功している。女性が世帯の生計を考慮してエンセーテでんぷんの加工技術の変革をもとめる本事例は、道路アクセスが農業技術の変革にとって必要条件ではなく、そこに暮らす人が改善された地域道路を具体的に活用する意思があつてこそ、影響を与えうるものであることを示した。

第2の学術的貢献は、地域道路へのアクセスの有無に留意して各世帯のエンセーテ生産やエンセーテから得られる収入への影響について分析検討し、調査地域においては、地域道路へのアクセスの有無が市場との結びつきに直接反映されていないことを明らかにした点にある。調査地域のエンセーテ生産や流通にとって、病虫害の蔓延や社会的慣習の変化は、地域道路へのアクセス以上に、大きな影響を与えているという指摘は重要である。さらに、エンセーテは、人びとの主食作物としてだけでなく、多目的有用植物として社会文化的な領域でも利用されており、その生産や流通は

他の換金作物と置き換わるのではなく、共存しうると論じたことは評価に値する。

第3点目として、エンセーテの栽培面積や在来品種の数と幹線道路から各世帯の家までの距離との間に正の相関があることを見出したことがあげられる。この事実は、対象地域におけるエンセーテの栽培に関わる慣習とその変化や、エンセーテ料理の嗜好に関する近年の傾向性もふまえながら、それらをエンセーテ栽培や流通に関わる知識やその継承として分析検討する基盤として扱われており、その着眼点は重要である。

本論文では、地域の自給的な作物としての重要性が高いエンセーテの場合、その生産と流通は地域道路へのアクセスが重要な決定要因ではなく、自給的な作物と新たに導入された換金作物の両方を生産することが重要であることを見出した。このことは、アフリカにおける道路開発と生産に関する地域研究の成果として大きな貢献をなしている。よって、本論文は博士（地域研究）の学位論文として価値あるものと認める。また、2024年1月19日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行なった結果、合格と認めた。

なお、本論文は、京都大学学位規程第14条第2項に該当するものと判断し、公表に際しては、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものとすることを認める。